

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

平成 22年 4月 15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	01711401540
法人名	有限会社 北邦工藤建設工業
事業所名	グループホーム さ ら さ の 杜
所在地	〒049-5812 北海道函館市安浦町364番地の2 (電 話) 0138-25-5800

評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成22年3月30日	評価確定日	平成22年4月15日

## 【情報提供票より】 (22年 3月 19日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17 年 6 月 16日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 常勤 16人, 非常勤 0 人, 常勤換算 16人

### (2) 建物概要

建物構造	造り
	1階建ての ~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円
その他の経費(月額)	5月~9月(月) 23,000円 10月~4月(月) 31,000円
敷 金	有 ( 円) (無)
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円) 有りの場合 (無) 償却の有無 有 / 無
食材料費	朝食 円 昼食 円
	夕食 円 おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円

### (4) 利用者の概要 ( 3 月 30 日現在 )

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名
要介護3	10 名	要介護4	4 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 81 歳	最低 61 歳	最高 89 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	坂口内科クリニック 函館渡辺病院 函館脳神経外科病院 川瀬耳鼻咽喉科医院
---------	---

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

函館市と合併した旧南茅部町は、日本国有数の真昆布の生産地であり、中でも天皇献上昆布の精製と大船遺跡でも有名などであり、町民の7割に近い人達が、昆布漁に何らかの形で関わっており、特色ある地域性をもった自治体である。当事業所は間もなく開設6年目を迎え、事業所の名称の由来ともなったサラサドウダンツツジ生い茂るどっぴりとした自然の中、一日中陽の当たり静かで広々と明るく、職員と利用者が互いにしっかりと信頼しきった様子がうかがわれる。業務課長兼管理者は常日頃より、職員の教育に「理念にそったケアを」と指導に熱心に当たっており、実践として利用者還元されており、成果が出てきている。より一層の努力され、更なる成果に期待したい。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題であった災害対策について、現在、地域消防団員との協力協定が出来、4月に22年度第一回目を実施することになった。なお、9月にはスプリンクラーの設置が予定されており、その実現を期待する。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	施設長、管理者、職員が一丸となって取り組んだ事により、評価の意義が理解され、マンネリ化防止に役立ったことと、具体的な実践につながっていった。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月毎に行われている。議題は主に事業所の活動状況及び利用者の日常生活報告になっている。ここで会議の参加メンバーも、広く地域の各方面からの参加を働きかけることが必要と思われる。よって、広い観点での意見も期待し、サービスの質の向上に活かされるのではないかと。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	施設長、管理者は、家族の要望などを普通に話し合える関係にありたいと、常日頃考えている。そこで無記名での独自のアンケートを作成し、家族の要望・希望など取り上げ利用者の為の、より良い運営になるよう努力している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	町内には約20程のボランティア団体があるが、現在、6団体に事業所の諸行事に参加してもらっている。事業所内清掃ボランティア、話を聞くボランティア、中・高生の社会体験学習など利用者大変喜ばれている。また、事業所は二つの町内会の境界に位置している関係上、両町内会に加入し祭りなども招待を受け交流は年毎に増えている。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	①豊かな心②安らぎの生活③自主性の尊重④喜びと生きがい⑤地域とのふれあい、認知症になってもこの町で安心して、自分らしくよろこびのある暮らしを送ってほしいとの願いからこの理念が生まれた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	特に新採用職員には、オリエンテーション時によく説明し、全職員はミーティングや申し送り時には、必ず理念を言葉にして理解を深め実践に向けて取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の6つのボランティア団体が事業所を訪れている。中でも地域婦人会ボランティアは、事業所内の掃除や利用者とゆったりと話し合うことで交流が深まっている。中・高生の社会経験学習の受け入れ、老人会の集会への参加など交流が年毎に多くなっている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長、管理者、全職員が自己評価に取り組んだ事により、意義を理解し、マンネリ化防止に役立ったばかりでなく、具体的な実践に繋がっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に実施されている会議の議題として、主に事業所の行事、利用者の生活状態の報告などになっているが、双方向的な会議となるに至っていない。	○	運営推進会議の意義や役割を理解して貫く為にも、地域の幅広い立場の方々にも参加してもらえるよう働きかけが必要と思われる。このことにより評価と会議が一体的に活かされる相乗効果を期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所として頻繁に保健所を訪問し、相談、情報の交換、アドバイスを受けるなどしている。地域包括ケア会議へは必ず出席し、サービスの質の向上に取り組んでいる。良好な関係が出来ている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日常生活や健康状態、金銭の管理状況などを、管理者が利用者家族宅を訪問し報告している。遠方の家族には、毎月定期的に郵送にて報告している。	○	4月より計画している「さらさ便り」（年4回）を是非実現させ、利用者の日々の状況、写真等と一緒に、職員の異動など掲載出来るよう期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から改善点の意見が出にくいことを考慮し、独自の無記名アンケートを実施している。その他に面会時などで出された小さな意見もユニット会議で取り上げ運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動については極力行わない方針であるが、やむをえない離職の場合、新任者と1週間から2週間を引継ぎ期間としている。利用者への説明は特に精神面に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修は、事故防止、感染について、緊急時の対応等等、マニュアルを用意し勉強会を実施している。働きながら資格取得者が誕生した事により、運営者は外部研修の機会を出来るだけ多くするよう計画している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当事業所は南北海道グループホーム協議会のBグループに所属し、保健所主催の外部研修や、Bグループ独自の勉強会に職員を参加させ、事例検討会などを通してサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者が自宅を訪問し、本人や家族と馴染みの関係をつくり上げることから始めている。また、本人・家族が事業所訪問の際は、食事を一緒にしたりして、安心、納得しながら利用出来るよう段階的な支援の工夫をしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の大先輩とし常に言葉づかいから気をつけている。特に調理などは教わる事が多く、利用者から励まされる場面もよくある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者と共に暮らしていることから、表情の変化などによりその日の身体の調子や心の動きを感じ取り、希望や意向にそうよう努力している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせる為には、どうすべきか全職員で話し合い、家族の意見、要望も取り入れながらプラン作成に努めている。また、プランは適切に提供されるようチェック、記録されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリング、3ヶ月毎にプランの見直しカンファレンスを行っている。状態に変化がみられた際には、家族、職員と相談の上、状況に合わせた計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の希望により、かかりつけ医以外の受診や理容院、法事、宿泊支援など臨機応変に柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医への受診は家族が同行するとなっていたが、家族の要望で事業所が行っている。利用者がそれぞれのかかりつけ医での医療を受けられるよう支援している。他に定期検診、週1回の往診も受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在重度化の利用者はいないが、重度化の指針を契約時に家族に説明し確認をしている。重度化した場合の対応は、まだマニュアル作成中、勉強会の段階で、全職員での方針共有とまでには至っていない。	○	今後、利用者は、時の経過とともに著しく変化する場合も考えられ、協力医、家族、職員3者の定期的な話し合い、連携体制づくりが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員が徹底している事として、利用者の誇りが損なわれるような言葉づかいをしないよう気をつけること。マニュアルを作成して研修会を行っている。個人情報の記録簿等は事務室に厳重に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調に合わせ、本人の望む過し方を全職員が工夫している。時間に関係ない朝寝坊、朝食、散歩、買物、外食等、希望にそった支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	男性の利用者も一緒になって調理を行っている。職員は利用者それぞれの好物を把握しており、順番に提供しよう工夫している。盛り付け、配膳、片付け、笑顔の中で行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日おきの入浴を設定しているが、利用者の習慣などを考慮し、就寝前だったり、毎日入浴だったり希望による支援をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	昔とった杵柄で事業所周辺の山菜採りに生きがいを感じている利用者や、それを食材にするべく処理する方、文化祭、老人会に自作の作品を展示する方、それぞれ楽しみがあり、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や身体の調子に合わせて、日常的に散歩、買物、ドライブ、船祭り、落語を聞く会など、戸外に出て季節を肌で感じられるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ施錠している。日中は地域の人や家族の訪問もあり、鍵はかけていない。職員は利用者の外出の癖をよく把握しており、センサーなどの設置はない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年の外部評価を踏まえ、運営推進会議で検討された。年2回の消防署指導での訓練は実施されているが、地域との協力体制までには至っていない。	○	平成22年4月に実施予定とされている地域消防団員との合同訓練が、力強い協力のもと実施されることと、現在、計画中のスプリンクラーの設置が9月完了になることもふまえ、合わせて期待は大きい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の残量をチェックし、水分摂取量などすべて記録され、かかりつけ医に報告されている。水分は一日平均1000ml～1200mlを摂取するよう特に気づかいをしていて、これを全職員が必ずチェックする仕組みをとっている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	高い天井から注がれる陽射しが居間一杯に広がり、畳の小上がりが家庭を思わせる空間になっている。壁には利用者の作品が飾られ、広い廊下には季節を感じさせる工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望に合わせて畳敷きの部屋もあり、カーペット、調度品はそれぞれ日常使用されていたものである。家族の写真などに囲まれて、居心地よく過ごされるよう工夫されている。		

※  は、重点項目。